

題：『あすのことを思いわずらうな』

新聖歌 290 番『野の花を見よ』

聖書：マタイの福音書 6 章 31～34 節

今日の題を『あすのことを思いわずらうな』とさせていただきます。

ここに私が日曜学校時代に使っていた「聖書」があります。このマタイ 6 章を開きますと、真っ赤に線が引いてあります。小さい文字で 1961 年 9 月 28 日と書かれています。

私が 12 歳、小学校 6 年の時です。

私は口語訳聖書で覚えたので、あえて『あすのことを思いわずらうな』とさせていただきますが、新改訳では『思いわずらうな』は「心配しなくていい」に訳されています。新共同訳では『思い悩むな』になっています。

このみ言葉を生涯聖句にしておられた先輩信者がおられました。証の時に「キリスト教は、ほんまに気楽な宗教や。明日のことを心配せんでええんやから」と言われていました。この方は千人以上の部下を束ねてこられた職場のリーダーでした。

ある時、ベッドに頭をぶつけられて頭に血が貯まり、いわゆる硬膜下血腫で、血を抜くために入院されました。父と私は病院にお見舞いに行きました。ベッドサイドに座って「明日、頭にドリルで穴をあけて血を抜いてもらいますねん」とさりげなく言われます。

私は『ゆだねてはるなあ』と思いました。後で知ったことですが、この方の生涯聖句が『あしたのことを心配するな』でありました。

今日は前回に続いて『山上の垂訓』の場面ですが、イスラエルに「山上の垂訓教会」があります。5 章の『こころの貧しい者は幸いです』『平和をつくる者は幸いです』など 8 つの幸いをイエス様は語られましたが、それにちなんで八角形でできています。ガリラヤ湖の望める丘の上に建てられています。前に弟子たちを座らせ、下の方には多くの群衆がイエス様の方を見えています。空には小鳥が、周りには野の花が咲いています。群衆の向こうにはガリラヤ湖が輝いています。そんな自然の中でイエス様は語られています。

30 節に『信仰の薄い人たちよ』と弟子たちに明言されています。

弟子たちはガリラヤ湖畔で『人間をとる漁師にしてあげよう』と声をかけられて、網を置き、取税人という職を投げ出してイエス様に付き従ってきました。しかし、弟子たちの心の中に「はたしてこの人に付いて行って生活していけるのだろうか」という不安があることを、イエス様は見透かされて、26 節のように『空の鳥を見なさい』また 28 節のように『野の花がどうして育つのか』と問われるのであります。

6 章の少し前を見ますと、弟子たちに祈りを教えておられます。『天の父よ』と呼び掛けて、『御名が聖なるものとされますように。御国が来ますように。みこころが天で行われるように、地でも行われますように』と、まず神様についてお祈りしなさいとされています。

そのあとで、『私たちの日ごとの糧を、お与えください。』と祈るように教えておられます。

34 節で『まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます』とされています。6 章 8 節でイエス様は『あなた方の父は、あなたがたの求める前から、あなたがたに必要なものを知っておられるのです』と言われ、32 節で『あなたがたにこれらのものすべてが必要であることは、あなたがたの天の父が知っておられます』と、2 回も「必要」を知っておられると強調されています。

実は私の救われた聖句は 33 節の『まず神の国と神の義を求めなさい』でありました。

1982 年 4 月 11 日のイースターに梅原先生から 33 歳の時に洗礼を受けました。

救われる前と後はどう違ったのかと言いますと、救われる前は、日曜日の朝は、今日はどこへ行こうか、何をして楽しもうか、私は映画やスポーツ観戦が好きでしたから、新聞で映画やスポーツの案内記事を真っ先に読んでいました。私の楽しみが第一の生活でした。救われた後は、何が何でも、まず教会に行く、神様の前に額づく、礼拝することが第一になりました。

ある土曜日、仕事で書類の整理に追われ、夜になり、夜中になり、朝があけました。日曜日の朝になりました。私はこの日、礼拝の司会に当たっていました。「こんな徹夜明けの寝ぼけた顔で講壇に立たしてもらってもいいんだろうか」と考える間もなく、『まず神の国と神の義を求めよ』と、御言葉に背中を押されて、職場から礼拝堂に駆け付け、任を果たすことが出来ました。

18 節でイエス様は『断食していることが、人にわからないようにせよ』とされています。ですから徹夜して、いかにも疲れたという顔ではなく、さりげない顔でやらせていただきました。

もう一度 26 節、28 節を読みます。弟子たちの不安は払しょくされました。

イエス様に従っていく覚悟がさらに強くされ、下の方にいる群衆をはじめ多くの人々に、イエス様の言葉を伝えて行く者となりました。

私たちも 34 節の御言葉に堅く立たせていただいて、与えられた今日、御業を御言葉を一人一人が遣わされるところで、伝えていく者とさせていただきます。